

テーマ：商業販売統計（2006年3月）

発表日：2006年4月28日（金）

～ 販売サイドからみれば、1-3月期の個人消費はますます ～

第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 副主任エコノミスト 新家 義貴
 TEL：03-5221-4528

（要旨）

- 3月の小売業販売額は前年比+1.0%と、ほぼ事前の市場コンセンサス並み。実質商業販売額を計算しても、緩やかに持ち直している。季節調整値でも、1-3月期は前期比+1.8%（実質ベースでも同+0.5%）と比較的好調。
- 販売側の統計である商業販売統計からみると、1-3月期の個人消費は決して悪くない。他の多くの統計もこうした事実を示唆している。やはり1-3月期における家計調査の低調な結果はサンプル要因による下振れである可能性が高い。1-3月期のGDPベース個人消費に関しては伸びが大きく低下することが予想されるが、実勢としてみれば個人消費の堅調な推移は持続していると考えられる。

（単位：％）

		商業販売額										コンビニ販売額				
		商業販売額		卸売業		小売業		大型小売店			百貨店		スーパー		前年比	既存店前年比
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	既存店前年比	既存店前年比	既存店前年比	既存店前年比				
04	10-12月期	3.1	1.0	4.2	1.0	▲0.5	0.3	▲2.0	▲4.5	▲3.8	▲5.1	2.1	▲1.1			
05	1-3月期	2.1	0.2	2.7	▲0.6	0.0	1.7	▲1.6	▲4.0	▲3.0	▲4.7	0.5	▲2.1			
	4-6月期	2.7	0.4	2.5	1.0	3.2	0.5	▲0.4	▲2.5	▲0.4	▲3.8	1.9	▲1.5			
	7-9月期	2.1	0.5	2.5	1.2	0.8	▲1.5	▲0.9	▲2.4	▲0.1	▲3.9	1.4	▲2.3			
	10-12月期	3.6	2.3	4.6	3.1	0.5	▲0.1	0.3	▲0.7	1.2	▲1.9	0.0	▲3.4			
05	2月	2.2	▲2.2	3.8	▲0.6	▲2.7	▲2.2	▲4.3	▲6.7	▲7.2	▲6.4	▲1.9	▲2.8			
	3月	0.7	▲3.6	0.9	▲5.1	0.3	▲0.5	▲2.4	▲4.5	▲3.2	▲5.5	1.9	▲1.5			
	4月	3.1	4.9	2.9	5.8	3.8	2.3	▲0.7	▲2.4	▲0.5	▲3.6	2.3	▲1.2			
	5月	3.1	▲2.1	3.2	▲2.0	2.9	▲1.0	▲0.7	▲3.1	▲1.4	▲4.2	1.3	▲2.0			
	6月	1.9	1.1	1.6	1.2	3.0	0.0	0.0	▲1.9	0.7	▲3.6	2.2	▲1.4			
	7月	0.3	0.6	0.2	1.2	0.6	▲1.4	▲0.4	▲1.7	0.6	▲3.4	▲1.1	▲4.9			
	8月	4.7	1.3	5.7	1.6	1.6	0.7	▲1.4	▲2.9	▲1.1	▲4.0	2.0	▲1.4			
	9月	1.5	▲2.7	1.8	▲3.4	0.2	▲0.6	▲0.9	▲2.8	▲0.2	▲4.5	3.5	▲0.3			
	10月	2.2	2.6	3.0	3.4	▲0.4	▲0.3	▲1.9	▲3.4	▲0.4	▲5.4	0.5	▲3.0			
	11月	4.2	1.6	5.3	2.0	0.6	0.4	1.8	0.8	3.1	▲1.0	▲0.5	▲3.9			
	12月	4.4	0.3	5.4	0.5	1.3	0.4	0.7	0.6	0.9	0.3	0.1	▲3.4			
	06	1月	5.3	4.0	7.4	3.1	▲0.4	2.4	▲2.3	▲2.8	▲0.9	▲4.1	0.3	▲3.2		
2月		5.5	▲2.7	6.9	▲2.0	1.1	▲1.4	▲1.5	▲1.9	0.3	▲3.3	1.2	▲2.4			
3月		3.4	▲5.1	4.0	▲6.8	1.0	▲0.3	▲0.3	▲0.6	1.8	▲2.5	0.8	▲2.6			

（出所） 経済産業省「商業販売統計」

○ 緩やかな回復傾向が続く

3月の小売業販売額は前年比+1.0%と2ヵ月連続で増加し、ほぼ事前の市場コンセンサス（+1.3%、レンジ0.0%～+2.1%）並みとなった。実質商業販売額を計算しても3月は前年比+0.8%と、2月の同+0.7%、1月の同▲0.9%から緩やかに持ち直している。3月は春物商品に動きがあったことなどがプラスに寄与しているようだ。また、季節調整値でも回復傾向が確認できる。3月の小売業販売額は前月比▲0.3%と僅かに減少したが、1-3月期で均してみれば前期比+1.8%（実質ベースでも同+0.5%）と比較的好調だ。

○ 販売側の統計では1-3月期の消費は弱くない

このように、販売側の統計である商業販売統計からみると、1-3月期の個人消費は決して悪くない。消費財出荷も1-3月期は好調なことや、景気ウォッチャー調査でも小売関連の回復が明確になっていることなど、他の多くの統計もこうした事実を示唆している。多数決で決めるわけではないが、やはり1-3月期における家計調査の低調な結果は、家計調査でしばしばみられるサンプル要因による下振れである可能性が高いということだろう。1-3月期のGDPに関しては、家計調査の影響をかなり受けることもあって10-12月期から伸びが大きく低下することが予想されるが、それをもって個人消費の減速ととらえることは適当ではない。実勢としてみれば、個人消費の堅調な推移は持続していると考えられる。

足元で既に、景気回復に伴う雇用環境の改善や賃金の緩やかな増加がみられている。先行きに関しても、景気の成熟化に伴って企業から家計への回復の波及はさらに明確化してくると考えられることから、雇用者報酬は徐々に伸びを高めてくるだろう。そのため、定率減税の縮減・廃止などの税・社会保障負担増による個人消費への悪影響は十分吸収可能だ。また、消費者マインドが改善傾向を続けていることも、消費の下支え要因として寄与するだろう。このように、1-3月期のGDP個人消費では不冴えな結果が予想される一方で、個人消費を取り巻く環境はむしろますます良化している。個人消費は今後も底堅い推移を続けると予想する。

